

平成22年5月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

震度5弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度1以上を観測した地震の回数は94回、日本及びその周辺におけるM4.0以上の地震の回数は67回でした。

国土地理院のGPS観測結果では、豊後水道周辺において検出された、平成21年後半からの非定常地殻変動は、現在も継続しています。それ以外は特に目立った変動は見られません。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

○ [火山活動]

霧島山（新燃岳）では、6日に火山性地震が増加し、火山活動が高まったことから、火口周辺警報を発表して噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げました。その後、27日15時36分に小規模な噴火が発生しました。新燃岳火口から概ね1kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

桜島では、上旬まで爆発的噴火の多い状態で経過しましたが、中旬以降減少しました。4月以降は火山灰の放出量が減少したことや、5月中旬には山体地盤の沈降傾向がみられることから、桜島直下へのマグマの供給は減少していることが考えられます。桜島の噴火活動は、中旬以降一時的にやや低下しています。今後、再び火山活動が活発化することが考えられますので、火山活動の推移に注意する必要があります。昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。桜島では、火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

諏訪之瀬島では、噴火が断続的に発生しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成22年5月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2010-goudou0608.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、気象庁、防災科学技術研究所及び大学等関係機関のデータが使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成22年5月号(平成22年6月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注5：平成22年6月の地震活動及び火山活動については、平成22年7月8日に発表の予定です。